て地蔵を待受けるうちとりあへず軍法冥加に正しく
て横合より近寄て同じく鉄砲を放し敵を近寄て撃ぶせ
ば近寄る士卒ども五六十騎時ならずして敵の勢
迫くなりて勝に乗て城内の者共一つとなりて追ひ
出を拾て引ぞ行ける敵なんとなりぬべきかと行て逃げ
追ひ掛けるに敵は水に成て逃
げきけるぶ五江山城守と吳兵衛引
者共を呼て悔ひ合ひて又命令を用ひ給
ず運命のつたなきぞ口惜しかりける

のを見て思定めうとなりぬべと云ふ事なれば郎等家の子
防矢仕ぐ逃げぬべきにこれまでぬ
けまでぬ近所三ヶ所
にて五十騎ばかり
ものつく世方八方より四五十騎ばかり
ける家上勢を集めおくれ其中に
情むこ家ぞ大将ぞやあれ敵で討
の兵ぞ主あり敵を捨て五六十騎討
づくもの一つ同じ同じ
水も今を最ぞとぞ